

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

第3回篠山市地元就職応援検討委員会

2 開催日時

平成30年12月18日(火)18時30分から20時00分まで

*受付時間(18時10分から18時20分まで)

3 開催場所

四季の森生涯学習センター 大会議室

4 会議に出席した者の氏名(敬称略)

(1) 委員 丹後政俊委員長、今西和義副委員長、奥田格、岡澤直樹、池本太三、板羽茂雄、増成広造、小島泰輔、内堀幸造(代理:池田みのり)、降矢寿民、山下和秀、原田久人、藤本雅弘、田中慎児、河南秀和

(2) 事務局 創造都市課長 竹見聖司
商工観光課課長補佐 麻田英史
企業振興室長 小倉元一、企業振興室主査 北村春恵

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

公開

7 非公開の理由

なし

8 会議資料の名称

①次第

②報告事項資料(資料1)

③協議事項資料(資料2)

④協議事項資料(資料3)

9 審議の概要

発言者	審議内容及び発言内容
	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 丹後委員長あいさつ 今日は、第2回の委員会での意見をもとに作成した提案について話し合いたい。 (議事については、丹後委員長が進行)</p> <p>3. 報告事項 (1) スケジュール確認・第2回委員会の議事録 事務局から、資料1について説明。</p> <p>4. 協議事項 (1) 前回の意見の取りまとめ・課題の抽出について</p>
丹後委員長	まず今年度の各高等学校の就職状況について伺いたい。
奥田委員	鳳鳴高校は、就職内定者が10人。内訳は民間企業5人、公務員5人。また、市内企業就職は4人、市内公務員は1人。私は5年前に鳳鳴高校に教頭として就任していたが、その頃よりも生徒から地元意識の強い動きを感じる。
池本委員	市内企業の就職者は、24人。
板羽委員	就職希望者は12人。市内企業へ7人が内定。その中には他市出身の生徒もいる。
丹後委員長	では次に、取りまとめた意見から(資料2)、学校、企業、行政のそれぞれが、地元就職を応援するために何を取り組めるか、意見等も含めて議論していきたい。
降矢委員	学校側への要望にもなってしまうが、進路指導部の先生にも地元企業の実態を生目の目で見て欲しい。また他に、OBで働いている子にヒアリングを行ったりすると身近に感じるのではないかな。
池本委員	進路担当職員の数が少ないので、個別に企業を訪問するのは難しい。取りまとめていただけるとありがたい。
事務局	今年5月に教職員を対象として2日間企業見学会を実施した。見学先の業種は様々で、教職員と相談して選定している。今後も引き続き拡充させて取り組んでいきたい。
藤本委員	先日、産業高等学校の電気科の生徒と交流授業を行った。その際実施したアンケートに「地元就職したい」人は、約半数いて多い印象を受けた。

	<p>この授業が「種まき」になっていければ嬉しい。また、市のホームページ内で、「classo」のバナーが「しごとサイト」である事がわかりにくい。</p>
丹後委員長	<p>なぜ若者が地元就職を考えているか、今後、深掘りする事も大切。</p>
奥田委員	<p>鳳鳴高校としても、進路指導部の教師に地元企業を知ることは、大事だと考えるが、進学校のため全面的に就職指導へ力を入れることが難しい。しかし、「地域講座」といった、篠山市の魅力や、どんな仕事があるかを知る事ができる授業がある。そこで、地元の企業を知るという機会を盛り込むことは出来るし、必要だと感じる。他の就職フェアなど、大人数が参加するイベントよりも、1クラスに地元で働く人がマニアックな話を聞く方が心に響くと思う。そこで卒業生が来た方がより良いと考える。</p>
板羽委員	<p>東雲高校では卒業生が話しに来たりする研修会などは行っていない。行事や授業が多く、なかなか時間が取れない。キャリア教育の研修会があるので、地元企業の方にきてもらうことを検討したい。これから研修会などでも地元企業と協力や連携をとれたら、より良くなるのではないかと。</p> <p>生徒はありがたいことに地元企業の協力のおかげで、インターンシップや現場実習で自分が希望している企業へ行っている。体験する事で地元就職に繋がっているのが大事だと感じる。</p>
丹後委員	<p>最近、企業と学校の橋渡しとなる仲介業者が流行っている。</p> <p>市内高校も企業の繋がる事が難しいようなので、篠山市が橋渡しになるのはどうか。</p>
山下委員	<p>商工会の方が行政よりも動きやすいと思う。しかし福祉業界が加入していないので、平等性はとれないかもしれない。</p>
河南委員	<p>地元で就職したいと思う人材にとって、市内企業へ就職できる場づくりや機会を設ける工夫が大事と考える。わかたけ福祉会では働く職員にとってスキルアップや給与面の優遇措置を意図して平成31年から副業・兼業を認める方向を考えている。</p> <p>しごと×classo（篠山市しごと情報サイト）に紹介されている働く若人の「写真」に出身校も掲載されてはどうか、それぞれ母校の先輩の姿を身近に感じていただけるのでは。</p> <p>地元就職の促進のプログラムには賛同する。「種をまく」ことから始まっているが、同時に「土壌づくり」も大切と考える。地元就職に対する仕組みや行政の制度等を土壌づくりとして、分かり易く提示してはどうか。</p>
丹後委員長	<p>大分県の由布院でUターンが増加している。市に対する愛着や誇りを持つことが影響している。篠山市も大河ドラマが予定されたり、日本遺産があったりして素晴らしいまちであるため、若者に誇りを持ってほしい。</p>
田中委員	<p>紀洋会を見学に来る学生に聞くと、免許を持っていない人が多い。しかし、働きながらでないと車も買えない。免許が取れる支援を行政にお願いしたい。「ふるさと就職奨励金」があるが、現金ではなく「あの時助けてもらえたな」と思い出に残るような具体的なものに使う支援策にした方が良いと思う。</p>

事務局	<p>介護職の人材不足は市地域福祉課でも課題と認識していて、対応している。支援策としては、「看護師等修学資金貸与制度」があり、介護職に対して拡充するか現在検討等を行っている。</p> <p>車の支援に対しては、現在カーシェアリングが篠山口駅近辺で民間事業者が実施している。</p> <p>「ふるさと就職奨励金」については、現在要綱を見直している。</p>
岡澤委員	<p>「篠山市しごと情報サイト」はコンテンツが充実していて、素晴らしい。インターンシップもPCやスマホから簡単に申し込める。高校生全生徒へ授業などで紹介してもいいと思う。学校とPTAが連携し、保護者と一緒にサイトを見てコミュニケーションのひとつとする事もいいと思う。高校に市内企業が来てもらう場合は、子供達に業種別でアンケートを実施すると、そのニーズが反映されて良いのではないかな。</p>
池本委員	<p>課題研究などでの地域連携や2年生全員によるインターンシップを行っており、篠山市に対する愛着心を育てたり、地元の企業を知る機会をつくっている。せっかく産高の卒業生が、沢山色々な地元の企業で働いておられるのだから、その方々のお話を聞く機会をつくりたい。</p>
小島委員	<p>新卒で就職するも、早期退職をする人は多い。そこからフリーターに流れている人もいる。</p> <p>ハローワークでは、既卒3年まで新卒扱いとする求人も増えている。高校に離職に関する相談があった場合にハローワークと更なる連携体制がとれたら、より良い地元就職につなげられるのではないかな。</p>
河南委員	<p>就職後に定着できるように指導するなど、支援をすることも良いのではないかな。</p>
原田委員	<p>卒業生の職員と交流をもつ場を作る事が、大切だと感じた。</p>
内堀委員 (代)池田	<p>「土壌づくり」は行政によるインフラ整備との意見があったが、土壌は家庭や地域であり、篠山市全体で、地元就職に取り組んでいるという土壌整備も大切ではないのかと感じた。</p>
丹後委員長	<p>いただいた意見を再度整理し、報告書の素案(資料3)を完成する事として、本日の審議を終了します。</p> <p>5. その他 特になし</p> <p>6. 閉 会 今西副委員長 あいさつ</p>